

令和5年度第2回「木曾悠久の森」管理委員会 議事概要【公表】

1 開催日時及び場所等	令和6年2月26日(月) 13:30~15:10 Web会議システムによるオンライン方式
2 出席委員 (五十音順) (敬称略)	飯尾 歩 (中日新聞社 論説委員) 植木 達人 (信州大学農学部 教授) 大浦 由美 (和歌山大学観光学部 教授) 大屋 誠 (上松町長) 岡野 哲郎 (信州大学農学部 教授) 小栗 仁志 (中津川市長 (代理 桂川 利也)) 勝野 智明 (木曾官材市売協同組合 理事長) 早川 正人 (付知町まちづくり協議会 会長) 正木 隆 ((国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究ディレクター) 藤森 秀彦 (信濃毎日新聞社 編集委員) 山本 博一 (東京大学 名誉教授) (計 11 名)
3 議事及び概要	≪議事(報告事項)≫ (1) 特殊用材の需要・要望に対する対応手順に係る伐採計画(案)(御杣始祭用材)に係る搬出支障木について(資料1) ・特段の意見等なし。 (2) 令和5年度の取組事項等について ① モニタリングプロットの設定等について(資料2) ・「木曾悠久の森」は、通常伐期の施業林分と違い、超長期にわたって育てるものになるため、間伐の効果を把握しておく必要がある。列状間伐のみでは残存列の混み具合が解消されない。また、定性間伐でも選木方法が後の林分形成に影響を与えることから、そういった影響を評価できるようなデータを取る必要がある。 ・列状間伐の実施後は、風による残存立木への影響が考えられ、胴折れ等が発生するおそれがあるので、皮目を確認するなど、残存立木の状態についても記録しておく必要がある。 ② 伐採及び造林の実績について(資料3) ・伐採実績及び伐採予定箇所の一覧表に、伐採率を記載することを確認した。 ③ 危険木処理について(資料4) ・当該危険木はナラ枯れの可能性が高いことから、周辺のミズナラについても監視していくことを確認した。 ④ 普及・PR等について(資料5) ・パンフレットの活用は効果的であることから、積極的に配布すべき。あわせて、学校や、団体等にパンフレットを置いてもらうよう依頼して

はどうか。また、「木曾悠久の森」が10周年となるので、PRを一層進めていくべき。

(3) 今後の予定等について

① 各専門部会に関係する検討・取組事項

- ・シンポジウムの日程や内容について、決まり次第共有いただきたい。
- ・シンポジウムにおいて、故山本進一委員の講義動画を紹介してはどうか。

② 専門部会・管理委員会の開催について

- ・特段の意見等なし（時期、内容等は別途調整することを確認した）。

(4) その他

（意見交換）

・シンポジウムの周知について、できる限りの協力をしたい。また、名古屋圏の方にも関心を持ってもらいたい取組であることから、幅広く周知していただきたい。

・貴重な「木曾悠久の森」を日本全国に周知していくことが大事。地元にとって誇りであろう森林であり、地元、地域の方々と関わっていくことが重要。まずは地元から、そして全国へと広げていくための取組を進めていく必要がある。

・10年の節目を契機として、より一層、もう一度「木曾悠久の森」の価値を広める機会を持つことが重要。シンポジウムは単に周知を目的とするのではなく、取組に関わる人を増やせるような内容とすべき。

・本年6月に赤沢自然休養林において、（公財）車両競技公益資金記念財団が医学的エビデンスを得るべく、森林浴の実証実験を計画している。「木曾悠久の森」の価値を高めていく観点から、また違った切り口となる結果が得られることを期待している。

・故山本進一委員の講義動画は、「木曾悠久の森」が世界的に貴重な森林であるということがよく理解できる内容となっている。森林教室などにより実際に現地を訪れた方々に、講義動画のアナウンスをしてはどうか。

・地域としても森林資源・森林文化を非常に大切なものと位置付けており、今後も「木曾悠久の森」の取組に関わっていききたい。

・「木曾悠久の森」の取組が地域の木材産業の活性化につながることを期待している。保存・育成・利用のバランスが重要。守るべきものはしっかり守り、資源を有効利用すべきは利用するということを、しっかり棲み分けて取組を進めることが必要。式年遷宮に係る御杣始祭等は、国民的伝統行事であることを明確にした上で、支障木も含め有効利用できるようにすべき。

・地元で貴重な森林や文化があることを誇りに思えるよう、形づくりをしたいという思いで地域での活動を地道に続けている。「木曾悠久の森」の取組が地元で根付き、そこから全国向け発信できればよい。また、式年遷宮に係る各行事は、地域の誇りとして長く続いてきたものであり、管理委員会で議論をしつつ、今後も継続できるよう進めていただきたい。

・「木曾悠久の森」は、木曾ヒノキを伝統的に利用してきた歴史的背景がある中で、保全するだけでなく復元させようとしている点に非常に意味のある価値を持っている。「木曾悠久の森」のプロジェクトが円滑に発展していくようよう取組を進めていきたい。

・生物多様性国家戦略や 30by30 に向けた取組を進める中で、「木曾悠久の森」はまさに時代の最先端の位置づけにあるといえる。それらをシンポジウムやパンフレットで強く PR していくべき。

－以 上－